

「Peace」はスクールカラーのオレンジとしました。



ピース!
Peace

Team Shiroyama

Peace 飛び交う、楽しい学校をつくろう!

令和 5 年 5 月 8 日

学校だより第 1・2号

校長 宮田 幸治

御家庭でも、子供たちへの声掛けをお願いします!

4月に着任して、何がどこにあるのかさえもわからないままあれやこれやと目の前の仕事に 忙殺されている間に、気が付けば5月となっていました。学校だよりの発行が遅くなり、申し訳ありません。今回は合併号です。

まずは、改めて「30年ぶりに城山小学校に帰ってきました。ただいま!」初任者として赴任して6年間、教職でしか味わうことができない子供とのかかわりを通した感動体験をはじめ、多くの教職における基礎を教えていただいた初任校に2度目の赴任となりました。30年前に子供たちとお別れするときに「城山小創立100周年のときに戻ってくるよって話したの覚えてる?」と当時の教え子に言われて「はっ」としました。「そういえばそんなことを言ったような…。」教員としての最初と締めくくりのとき、子供たちにお話をした100周年記念のときに城山小学校にいる。なんとなく運命を感じています。天命と考え、学校づくりに励んでいきたいと思えます。(すでに教え子やその保護者の方々に励ましの声をいただいております。)

本校では、「いたわりはげます 平和な学校」～平和は城山から～の学校教育目標を引継ぎながら、仲間の考えの良さや多くの情報の取捨選択を行いながら、仲間との考えの違いを解決し、よりよい方法を判断し、自ら行動できる子供を育てていきたいと考えています。子供たちが、互いの違いや互いの考えのよさを認めながら互いに納得して力を合わせていく姿、共に助け合いながら活動していく姿は、意見の対立からの争いをなくし、平和な世の中づくりに向かっていく姿へとつながっていくものと信じています。このような姿が、様々な場面で見られるようになってほしい、子供も先生方も、保護者・地域の方も「城山小学校ってどんな学校?」と問われたときに、同じことをつぶやいてほしい、という願いを込めて、標題にあります「Peace 飛び交う、楽しい学校をつくろう!」の合言葉を示しました。

「楽しい学校」をつくるための土台となるのは、「すべての子供が安心して過ごすことができること」だと思います。安全・安心はもちろんですが、ここで言う「安心」は、「失敗しても大丈夫」「困ったときは先生も友達も助けてくれる」「がんばりや自分の伸びは、みんなが認めてくれる」などの「心の安心」です。これは、少し難しい言葉となりますが、「支持的風土の醸成」と言います。この「支持的風土の醸成」を図るために、「いいぞ」「ナイス」「すごいね」「ドンマイ」「次、一緒にがんばろう」「もう一度挑戦しよう」などの言葉や行動が随所に見られるようにしていきます。これを「Peace 飛び交う」と表しました。このことは、全校集会で子供たちにもお話をしています。

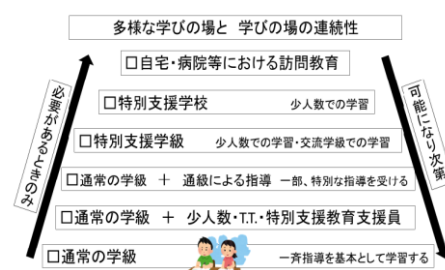
学校教育活動を通して子供たちを目指す方向に導いていくためには、「いつでも、どこでも、誰もが同じことを言う」ことが大切です。「支持的風土」を土台として、平和な世の中を目指してチャレンジ精神旺盛な城山小の子供となるよう、ぜひ、御家庭においても学校と同様に子供を褒めることを基本として、「Peace (ピース)」な言葉を声掛けしていただきますよう御協力をお願いします。

「Peace 飛び交う、楽しい学校」の運動会へ

今年度の運動会では、アフターコロナを様々な学校の取組を見直す機会として、これまでの「当たり前」を再度見直し、運動が得意な子供も苦手な子供も、障がいがある子供もそうでない子供も、運動やスポーツが持つ「楽しさ」に触れ、運動に楽しく取り組むことを大きなねらいとしたいと考えています。そのねらいに向かいつつ、運動会の練習に多くの時間を割くことなく体育をはじめ他教科の学習時間を確保すること、集団で生活する場の学校において大切なことを学び、併せて思い出深い学校行事となることを意図しています。最後まで勝ち負けがわからないドキドキする競争となるようなルールを加えたり、学習したリズムダンスや民謡に自分たちのオリジナルの踊り方や隊形を入れたり、競技後の退場の際にポーズを入れたり、と体育で学習している内容をベースとして「子供が楽しむ運動会」となるような工夫を取り入れていきます。「今日の運動会は楽しかった!」という子供たちの言葉を今回の最大の評価としたいと思います。保護者の皆様からの「Peace な言葉」もたくさん聞かれますようご理解とご協力をお願いします。

子供たちの個性と可能性を大切にしたい特別支援教育を

「インクルーシブ教育システム」という言葉をご存じと思います。これは、多様性を大切にし、障がいのある者が心身の能力等を最大限に発達させ、社会に参加することを可能にするという目的の下、障がいのある者と障がいのない者が共に学ぶ仕組みをいい、障がいのある子供と障がいのない子供が、できるだけ同じ場で共に学ぶことを目指すことが大切となります。それには、それぞれの子供が授業の学習内容を理解し、学習活動に参加している実感・達成感をもちながら、充実した時間を過ごしつつ、生きる力を身に付けていけるかが大事となります。そのために、一人一人に合った学びや支援を提供できるよう、様々な学びの場があり、障がいや特性のある全ての子供を対象とした「特別支援教育」の充実が求められています。障がいのある子供の自立や社会参加に向けた主体的取組を支援するという視点に立ち、子供一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うものです。



平成19年4月から、「特別支援教育」が学校教育法に位置付けられ、すべての学校において、障がいのある子供の支援をさらに充実していくこととなりました。さらに、特別支援教育は、障がいのある子供への教育にとどまらず、障がいの有無やその他の個々の違いを認識しつつ様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となるものであり、国の現在及び将来の社会にとって重要な意味をもっています。（「令和5年度就学相談のしおり」より（長崎市教育委員会発行））

本校では、今年度より、特別支援（肢体不自由）学級として「ひまわり学級」を新たに設置しました。本校の特別支援学級は、障がいに応じて5つの学級となります。学級では、子供たちの力に応じて個別最適な学習や活動を計画・実践するとともに、交流学級で多くの友達とコミュニケーションを図りながら学校行事や集団での学習が適した内容の学習に取り組んでいきます。

- 【ICT 活用の推進】「効果的な活用」を目指して、全市的に「Qubena (AI 型教材)」「MEXCBT」の活用を進めていきます！**
- 漢字の練習や算数での立式等に、手書入力を使います。「文字を丁寧に、同じ高さで一行で書く」「解答を最後まで書く」「解答以外の文字が入力されていないか確認する」などの確認が必要です。学校の学習でも声掛けを行っていきます。
 - ・うまく認識できないときはノートでの練習もOKです。担任と相談をお願いします。
 - ・手書き入力用の「タッチペン」を、後日、全員に配布します。筆箱に入れるようにします。（記名をお願いします。）
 - AIドリルは、全学年までの学習内容にさかのぼって、自分のペースで繰り返し復習に取り組むことができます。
 - 子供たちの学習状況や進み具合を担当も確認することができます。各自の力と進捗状況に応じて声掛けをしていきます。
 - 学習者用パソコンで利用したすべての検索履歴やメール等のデータは記録されており、確認することができます。

※ 文字ばかりの長文となり、申し訳ありません。（反省しています。）城山小 HP にも掲載します。見にくいときは PC 等でそちらをご覧ください。（HP <https://www.nagasaki-city.ed.jp/shiroyama-e/>）